

# P. E. (Physical Education)

松本 康子

現地校の「PE」が日本の「体育」と同じかなと思っていたら、まるで違うようです。

日本育ちの私が、我が家の子ども達を現地校へ通わせて、「何とかしなくては」と思ったことが一つありました。

子ども達の会話の中で、PEの時間に「ドッジ・ボールをした」という、気になることを耳にしたからです。ドッジ・ボールは、子どもの遊びじゃないでしょうか？根掘り葉掘り聞いてみると、それもれっきとした授業らしいのです。

## < P.E. >

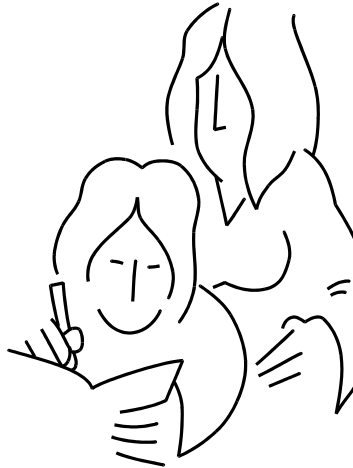
子ども達の話から何度も「PE」という言葉は耳にしたはずなのです。ですが、その授業内容まで知りませんでした。

子ども達からの話をまとめると、Black Top（アスファルト部の校庭）で走るかドッジ・ボールやバスケット・ボールをするらしい。中学生だった長女でも走る距離がちがうくらい。ちなみに、芝生は、滑ると怪我するという理由から使用禁止。それじゃ、あの広大な校庭は何のためのもの？と、親子でひとしきり議論。また、小学校には体育館がないので、雨の日はゲームなどして教室で過ごすとも言います。

考えてみると、それまで体操服を用意しなかったことや、学校の体育設備（マットや跳び箱など）らしいもの見かけなかったのです。私の頭の中では、PEイコール「日本の体育」だったからでしょう。お勉強も大事ですが、学校では、身体能力を伸ばしてやる助けを期待できないようです。それに、小学校ではPEの専任の先生もいないと聞くに至って、現地校の体育教育についてあまりにも知らないことが多すぎると、改めてあわてました。

さっそく近所のスポーツ・ジム・クラブに入会。学校帰りに泳いだり、ボーリングをさせりしましたから、親子でかなり忙しくなっていました。水泳は全身運動と水難に遭ったときのためにと選びましたが、なにしろ、子ども達は幼稚園の頃にtodd（toddlerの略）poolしか経験したことはありません。私も一緒にプールへ入り、水に慣れさせることから始め、最後に平泳ぎとクロールが泳げるように手取り足取り教えました。

ボーリングは、入会したスポーツ・ジムにたまたま施設があったことと専門家が指導してくれること、それに球技ですから道具を使うスポーツとしていいかな？と。また、年齢別リーグ戦があって、練習したことに結果が出ることも経験できました。家庭で補わないといけないという、やむない事情があつてのこととは言え、引越するまでの2年間にほぼ日課として通ったのですから、私はけっこうなスパルタ教育（体育会系）ママです。



## < おけいこ >

私の経験から、そこまで家庭での教育が必要かしらと思うくらい、日本では「おけいこ」教育が過剰気味という印象があります。

最近はどうなのか分かりませんが、10年くらい前の、体験入学のために一時帰国した頃の話です。長女と同年の姪の生活は、学校から帰ると毎日、何かしらのおけいこ事で出かけてしまい、一緒に夕飯を取る暇もないくらいです。そのおけいこ事の上に水泳があり、土・日曜日を除き毎日練習するというスケジュール。どんなことをしてるのか聞いてみると、準備体操に1時間半かかるので1日3時間くらいの練習と言います。姪の例は特別だと思っていましたが、そうでもないようで「学校で泳げないと思われたくないのか、けっこう、みんな水泳教室へ通ってるよ」と姪から聞いて、びっくり。

日本の体育は、私が記憶しているだけでも水泳、跳び箱、マット運動、屋外で走り幅跳び、バレーボールやハンドボールなど等、様々な運動がありました。今もそれらは変わらないようで、アメリカの子ども達とは比較にならないくらい学校で身体を鍛える機会に恵まれ、文武両道の教育がなされているようなのです。それなのに家庭でのスポーツ教育が熱心なのはなぜなのか、こちら、私の事情とは違った意味があるのでしょうか。